仙台市天文台にプラネタリウム館がオープン

～東北大博覧会の開催とプラネタリウム～

東北初のプラネタリウム館が設置された「東北大博覧会」

昭和 42 年（1967 年）4 月 14 日に開幕した東北大博覧会（河北新報社主催）には、「プラネタリウム館」と称したプラネタリウムドームが設置されました。東北大博覧会が昭和 42 年（1967 年）6 月 12 日に閉幕を迎えるまでの期間、プラネタリウム館には常に順番を待つ長蛇の列が出来、大変な盛況を博したと言われています。

東北大博覧会のプラネタリウム館

国内最大規模のプラネタリウムが仙台に

プラネタリウム館は、当時としては国産最大の直径 16 メートルのドームで、中に設置されたのは五藤光学研究所製の光学投映機「M-2 型プラネタリウム」でした。プラネタリウム館の設置には、アドバイザーだった天文台初代台長・加藤愛雄をはじめとする天文台職員も携わりました。そういった経緯もあり、博覧会閉幕後、プラネタリウムの本体・付属投映機一式と建物、換気装置のすべてが仙台市（仙台市天文台）に寄付されることになります。こうして昭和 43 年（1968 年）5 月15 日、仙台市天文台でプラネタリウム館がオープンしました。

仙台市天文台 プラネタリウム館開館当時の様子

プラネタリウムを子どもたちのために

当時、全国的に急速にプラネタリウムが普及しましたが、子どもたちの学習のために利用されることはほぼありませんでした。しかし、仙台市天文台では「プラネタリウムを学校授業にフル活用せよ」という加藤台長の思いをもとにプラネタリウム教育に力を入れました。天文台が作成したプラネタリウム学習指導案は、瞬く間に全国に広まることとなります。

加藤台長の思いは現在も受け継がれ、今なお市内ほぼすべての小学 4 年生、6 年生、中学 1 年生が訪れ、学習の一環としてプラネタリウムでの授業が行われています。

プラネタリウムを活用した学習指導書